

平成18年度「専修学校におけるNPO団体等と連携したニートに対する  
職業教育支援事業」成果報告書

事業名	専修学校におけるNPO団体等と連携したニートに対する職業教育支援事業		
法人名	学校法人キャリアテクニカ学園		
学校名	日本自然環境専門学校		
代表者	理事長 五十嵐 忠司	担当者 連絡先	尾形 光弘 TEL 025-247-0011

1. 事業の概要

実践的な職業教育、専門的な技術教育を実践している専修学校とニート支援にノウハウを持つNPO団体等が相互に連携することで、より適切な就業支援や進路相談を実施しニート状態からの早期脱却を促す。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

当初、一期定員10名で5期までの予定で望んだ事業であった。広くこの事業の存在を広報することには大変な苦労が、果たして受講生の確保ができるかどうか、不安な中、スタートした。しかし結果的に4期は開講できなかったものの、全体で32名4期のセミナーを開催することができた。この中には重複受講者は一切含まれておらず、毎回、新しい受講生を確保することに奔走した。しかし短い準備期間にもかかわらずNPO法人、ハローワーク等との連携により32名を確保できたことは、評価に値する。また『ニートのための』と明確に打ち出すことで、受講生が集まりにくいのではないかと危惧した。しかし自らをニートとあえて定義することで、そこから脱却を図る強い意志も生まれる。今回の事業の目的を鑑みれば、この決断は正しかったと思われる。ニートからのステップアップを図るという共通認識のもと講座をすすめることができたからだ。また就職支援にも大変困難が伴った。全ての受講生が必ずしも積極的に就職を希望しているわけではなかった。このような中で、修了人数32人中就職できたのは10人、進学した者は1人で全体の34%については今後の進路が決定した。また今後もその数は増えていくであろう。また、引きこもりがちな受講生も多く「引きこもりから脱し社会参加する」という面で捉えると、セミナー修了後の定例会へ出席できるようになった人(引きこもりがちな人にとっては修了後出席すること自体大変なこと)は、3月時点で進路未定者21名中、常時12人程度で出席率で60%弱であった。

②事業により得られた成果

ニートの多くが現在の自分に自信がない状態にあった。その原因は職場での挫折などさまざまであるが、特にコミュニケーション能力について問題意識を持つ受講生が多かった。そのため講座では受講生のコミュニケーション能力の育成に努め、自信の醸成を促した。また、就職活動の拠点となるハローワークに通わせることにも重点を置いた。その結果、多くの受講生が自信を取り戻し、引きこもり状態を脱して就職活動やボランティア活動に対して前向きに取り組めるようになった。ハローワークへの登録、相談は受講者の100%が行った。またボランティア活動に参加したものは32人中8人で25%であった。

### ③今後の活用

新潟県でも三条サポートステーションが稼動しており、また新潟市でもその動きが高まっている。またハローワークの若者しごと館でも若い方々の就労サポートを積極的に行っている。今回NPOやハローワークと連携して事業を行ったことで、そのノウハウを互いに共有できたことはとても大きい。福祉や行政の現場でも今回の経験を生かし、発展した形での活用が期待される。また当校としてもNPOの持つ知識や技術については専門学校では持ち難いものも多く、特にカウンセリング的な手法の講義については受講生の満足度も高く、専門学校生に対し、今後も活用できるだろう。当校としては得意とする就職指導について十分に効果をあげ、お互いに満足いく取り組みとなった。結果として受講生の内面を支えるNPOと技術的な問題を解決する専門学校の役割分担を明確化することで、より効果的な成果をあげることができたと思われる。

### ④次年度以降における課題・展開

「ニートのためのステップアップセミナー」として当講座を開催したが、広く対象者に告知するのに大変な困難があった。多くの悩みを抱えている人々に知ってもらい、受講を呼びかけるために、公民館へのポスター掲示、ちらしの配布、新聞各紙への取材協力、情報誌での無料告知など、考え得るあらゆる方法を試したが、なお情報が行き渡っていたとは言い難い。またコミュニケーションが不得手な人が多い本講座においては、就労に向けての動機付けの前に受講生と担当者との信頼関係を形成する必要がある。短期間での信頼関係構築にはかなりの困難が伴うため、講座期間の長期化や修了生への支援を2～3ヶ月程度かけて強化する等の対策が講じられるべきであろう。またニートに対する社会の偏見を取り除き、若い人を温かく見守る制度が、経済社会の中に必要不可欠である。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①自立支援アドバイザー

修了生に対し、個別の電話相談や個別カウンセリング、グループによる就労相談や就労のためのアプローチを指導。

レクリエーションやボランティア参加・ライブ鑑賞など、各種体験を講師が率先して引率することで、受講修了生の意識を変え、社会参加や就労を促す。多くの大人が、自分たちを見捨てないという認識をもってもらい、一步を踏み出す起爆剤となれるよう、活動した。

### ②講座の実施

- 講座名:ニートのためのステップアップセミナー
- テーマ:ニートの自立に向けた第1歩をバックアップし、就労・自立を促す。
- 受講者の属性:15歳～34歳の未婚で無職の者
- 講座回数:4回(1～5期までの5回を予定していたが、4期は人数不足のため実施できなかった)
- 受講者数:32人
- 場所:新潟簿記学校校舎
- 受講者アンケートの結果
  - 調査対象:講座修了者
  - 回答者数:32人
  - 調査方法:主な講座について「大変満足」「満足」「普通」「不満足」を調査
  - 有効回答数:653
  - 有効回答数内訳(カッコ内は割合):大変満足(48.5%)、満足(38.9.5%)、普通(11.0%)、不満足(1.5%)

### ③その他

ニートにはいくつかのタイプがある。当校では以下の3タイプに分類し、それぞれのタイプにあった講座メニューを用意した。

- ① 引きこもり型:対人関係や社会性が身につけていないため、内にこもってしまうタイプ
- ② 立ちすくみ型:「やりたいことが見つからない」として就職に行き詰まってしまうタイプ
- ③ つまずき型:いったんは就職したものの職業生活に挫折し、自信を喪失したタイプ

①については「レクリエーション」「挨拶と世間話」「ひとづきあい」等の講座を通して最低限、身に付けるべき対人関係のルールやマナーを習得させることに重点を置いた。また「身体ワーク」の講座等で『しゃべり場』と称して人と関わる機会を増やし、気持ちを外向きにするよう心がけた。

②については「未来デザイン」「事業者の求めるもの」「就労計画」等の講座で「やりたいこと」と「できること」の峻別を行い、就労について具体的なイメージを持たせることを期した。加えて職場・NPO体験では自分の就労したい分野との関連性を明確にした上で研修に取組ませることで仕事に対するプラスイメージの醸成に努めた。

③のタイプについては本来ならば職業能力があるにも拘らず、仕事に就けないという状況に鑑み「辛いとき」「自信を育てる」等の講座で挫折感に基づく心の傷を癒し、「ビジネスマナー」や「面接体験」を通じて実践面での準備を具体的に行われせることを期した。

講座全般について工夫した点は受講生のおかれている状況各々違うため、一人ひとりに対してよりきめ細かい指導を行うことを心がけた。具体的にはカウンセリングや休憩時間・放課後の声かけ、講義内容の理解度チェックなどにも配慮した。